



ホワイトペーパー

ロジクール SYNC : ハイブリッドワークスペースにお けるデバイス管理

単一のプラットフォームで自宅とオフィス、両方のデバイスを管理

logicool



ハイブリッドワーク時代のIT部門は、オフィス用ビデオ会議デバイスだけでなく、ウェブカメラ、ヘッドセット、ドッキングステーションなどの在宅勤務向けデバイスも管理する必要があります。新たな責務が増えることで、いくつかの大きな問題が発生します。

- 従業員は実際に在宅勤務向けデバイスを使用しているか？ 使用している場合、従業員はそれらのデバイスを最新の状態に維持しているか？
- ビデオ会議デバイスおよび会議室は組織全体でどのように使用されているか？ 会議の質を向上させ、すべての人に、より公平な会議を提供できるか？
- ハイブリッド環境において、IT部門が他の業務にも時間を割く余裕を残しつつ、ビデオ会議デバイスを管理、監視するにはどうすればよいか？

これらの問題を解決することで、IT部門はトラブルチケットを減らして、導入したウェブカメラやヘッドセットの利用を促進できます。また、職場の全員がビデオコラボレーションに貢献できていることを実感できるため、従業員の離職率が低下します。

そこで、このホワイトペーパーでは以下について詳述します。

- 公平なハイブリッド会議の必要性
- 従業員によるビデオ会議デバイスの利用を促進する方法
- IT部門がロジクール Syncを利用して、分散したチームの効率的なコラボレーションに必要なビデオ会議デバイスを管理、最適化する方法

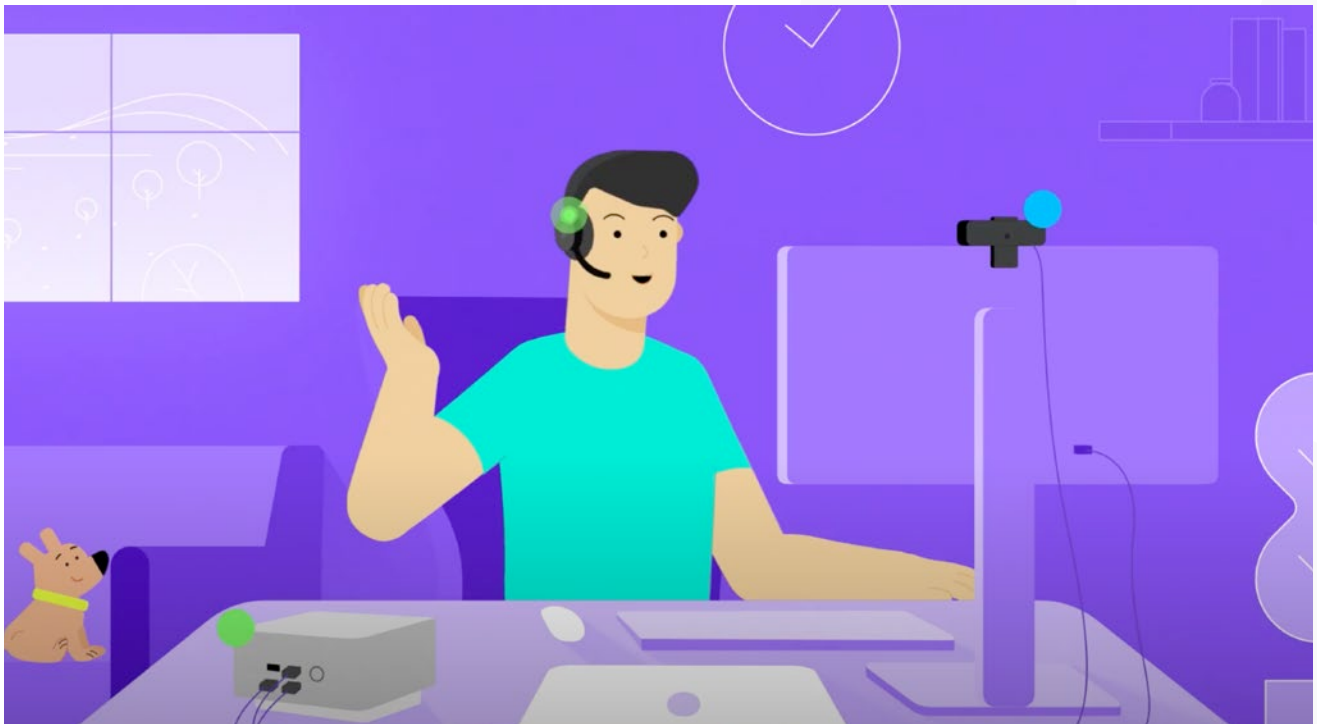
公平なハイブリッド会議は不可欠であり、実現可能である

「ビデオ会議は、単なる流行でも、ハードルの高いものでもない」と考え、公平なハイブリッド会議体験の実現に腰を据えて取り組みましょう。質の低いハイブリッド会議にリモートから参加したことがあれば、会議室にいる他の参加者たちが直接対面で問題なくやりとりする間、何とか音声と映像を伝えようと悪戦苦闘した経験をお持ちのはずです。

従業員にはビデオ会議用ツールを支給済みで、トレーニングも行っていたにもかかわらず、まだ何か上手くいかない、ということがあるかもしれません。もしかすると、オフィスの会議室にいる従業員が、会議室システムではなくノートPCで通話しているのかもしれません。あるいは、従業員の大半が依然として会議中にカメラをオフにしたがっているのかもしれません。このような状況は、会議の質を低下させ、IT部門へのサポート要請を増加させ、全員の生産性を低下させる結果となります。

これを解決するには、問題点を把握し、改善の余地がある部分を特定することが重要です。そのためには、組織で現在どのように会議が行われているかを把握する必要があります。

デバイスは使用されているか、またはアイドル状態か？狭すぎるハドルルームに大勢が押し込まれている一方で、最も広い会議室は空いたままになっていないか？これらのデータがあれば、会議の生産性と公平性を向上させるための改善点を正確に特定することができます。



誰もがあらゆる場所から、不自由なく会議に参加できるようにする必要があります。

従業員による利用を促進する

導入した在宅勤務用デバイスを従業員に使用してもらうことも重要です。どんなに優れたウェブカメラでも、従業員がそれを簡単に更新して、必要に応じて設定を調整できなければ役に立ちません。幸い、ハイブリッド会議の質を向上し、従業員によるデバイスの利用を広く促進するソフトウェアソリューションがあります。



Syncを使用すれば、オフィス用および在宅勤務用のデバイスをあらゆる場所から管理できます。

ロジクール Sync のご紹介：シンプルな管理

会議室からホームオフィスに至るまでの、すべてのデバイスを一元管理できるプラットフォームにより、分散したチームがどこからでも働けるようになります。

Syncは、シンプルなブラウザベースのインターフェイスからビデオ会議機器を簡単にサポートできる、クラウドベースのリモートデバイス監視/管理ツールです。

Syncにより、あらゆる場所から、自宅およびオフィスのビデオコラボレーション デバイスを簡単に監視、管理して、貴重なインサイトを得ることができるようになりました。

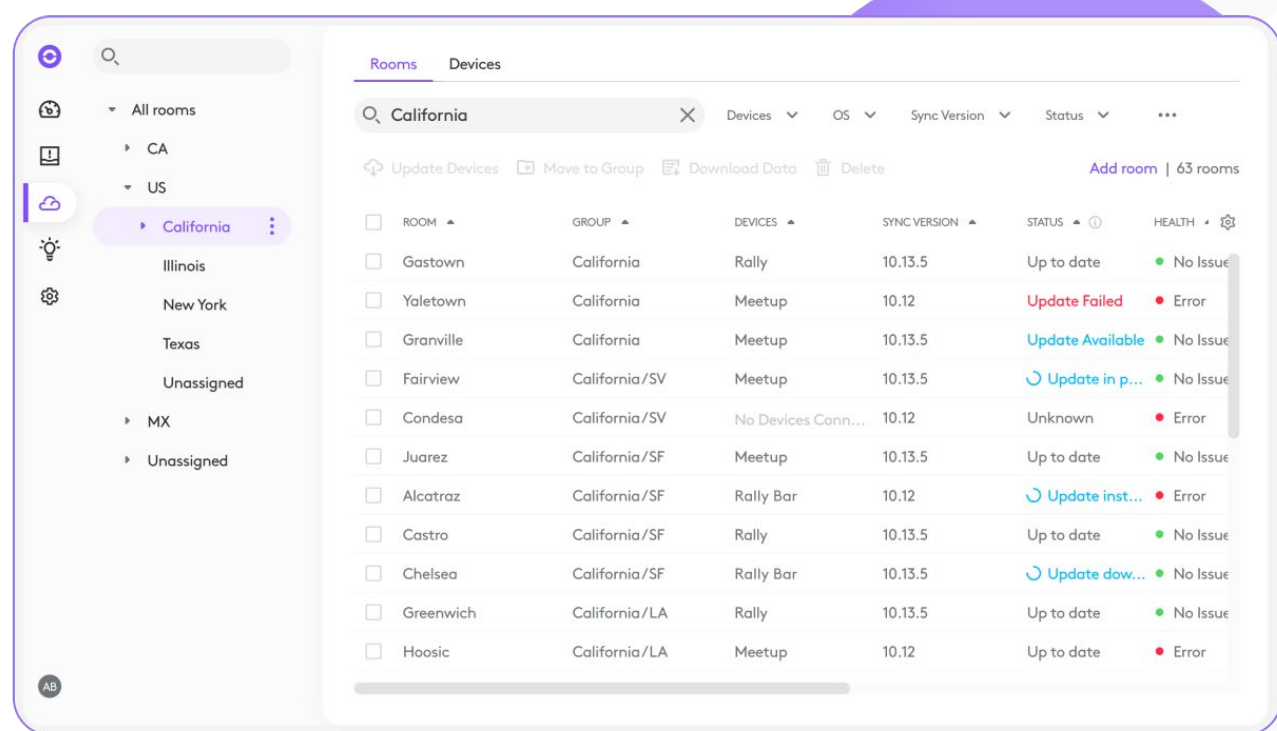
Syncがどのようにしてハイブリッドで働く従業員へのサポートを容易にするのかをご紹介します。

会議室用デバイスを管理する

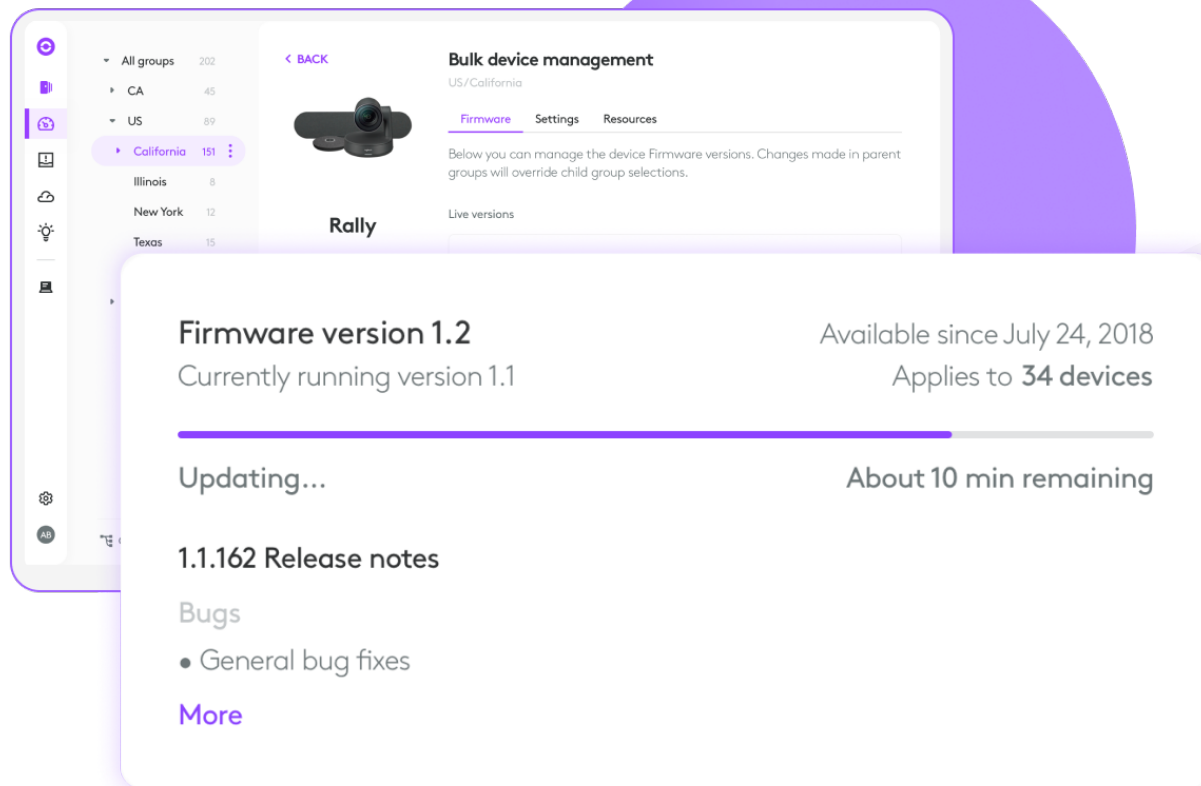
Syncはオンデマンド更新とスケジュール更新の両方をサポートしています。そのため、Syncダッシュボードを介して、ネットワーク接続された会議室に最新ファームウェアを簡単にリモートから導入できます。

Syncを介したスケジュール更新により、更新の適用を夜間帯に指定して会議室が使えない状態を最小限に抑え、会議室をいつでも利用できる状態に維持することができます。

Syncを使用すれば会議室デバイスの設定も簡単に行えます。Syncに接続された個々のデバイスまたはデバイスグループを選択し、アクション（RightSight自動フレーミングの有効化/無効化など）を選択するだけで、あらゆる場所からデバイス管理を行えます。



Syncは、企業全体の接続デバイスと対応するステータスの情報を保持します。



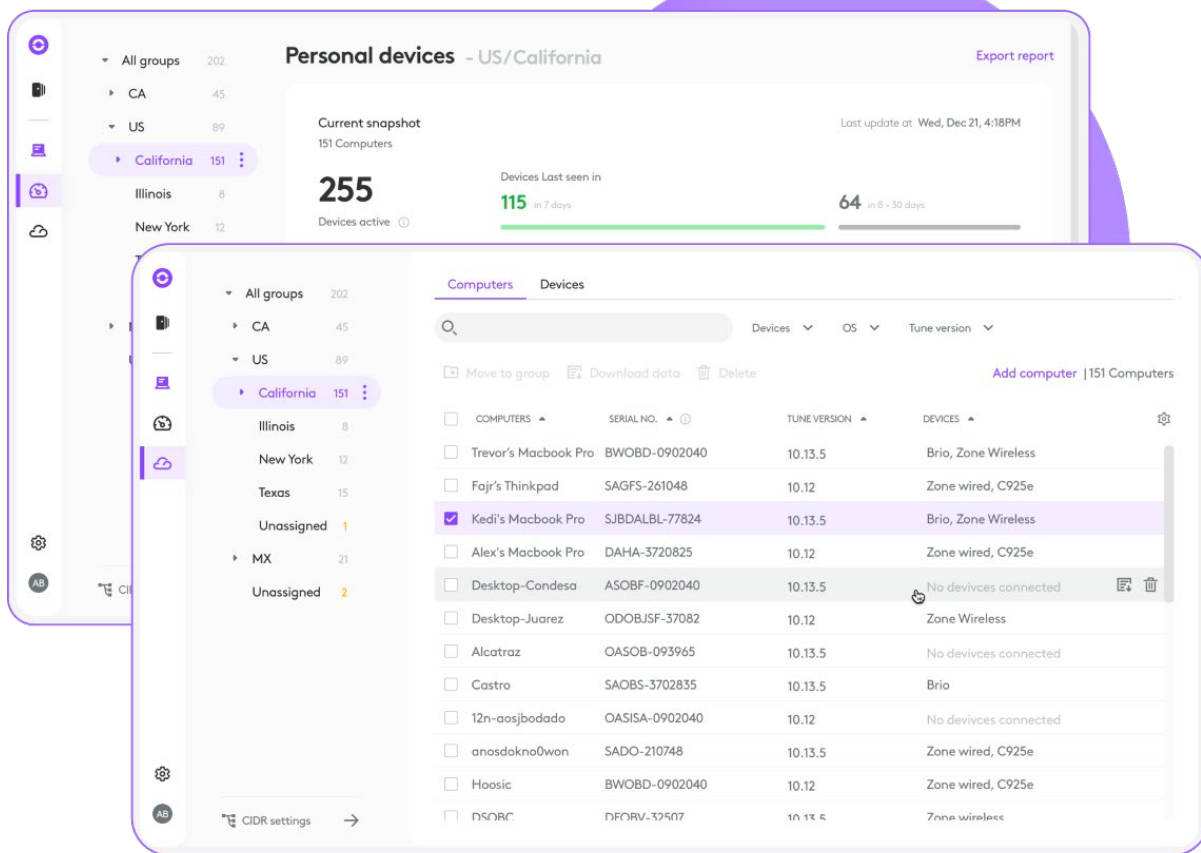
ブラウザベースのインターフェイスからスケジュール、設定、タスクを管理できます。

パーソナルコラボレーション デバイスを管理する

分散したチームでSyncと**Logi Tune**を連携させれば、一部のロジクール パーソナルコラボレーション デバイスに関するインサイトを取得できます。

従業員のコンピュータにLogi Tuneを導入すると、IT部門では以下のことが可能になります。

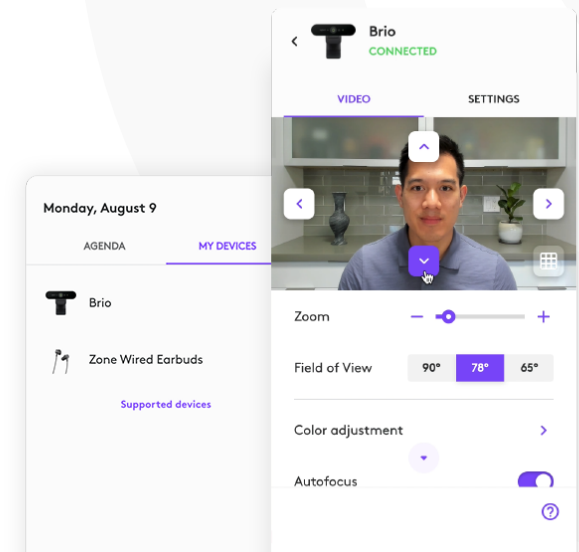
- **デバイスの使用状況を追跡**：パーソナルコラボレーション デバイスの使用状況を追跡し、どの従業員がウェブカメラ、ヘッドセット、Logi Dockを使用しているかを確認できます。
- **ファームウェアの更新を適用**：ファームウェアを常に最新の状態に保つことで、リモートワーカーのデバイスに関する問題を最小限に抑えます。



Syncを導入すれば、あらゆる場所からパーソナルコラボレーション デバイスの使用状況を追跡できるようになります。

Logi Tuneが持つ以下の機能により、従業員はビデオ会議中に自分の映像や音声を簡単に制御できます。

- ウェブカメラのフレーミング、フォーカス、フィルターの調整
- ヘッドセットまたは会議・音楽再生用 Logi Dockオーディオのキャリブレーション
- 声の音量の管理およびノイズの最小化
- 会議予定の表示およびワンタッチでの参加



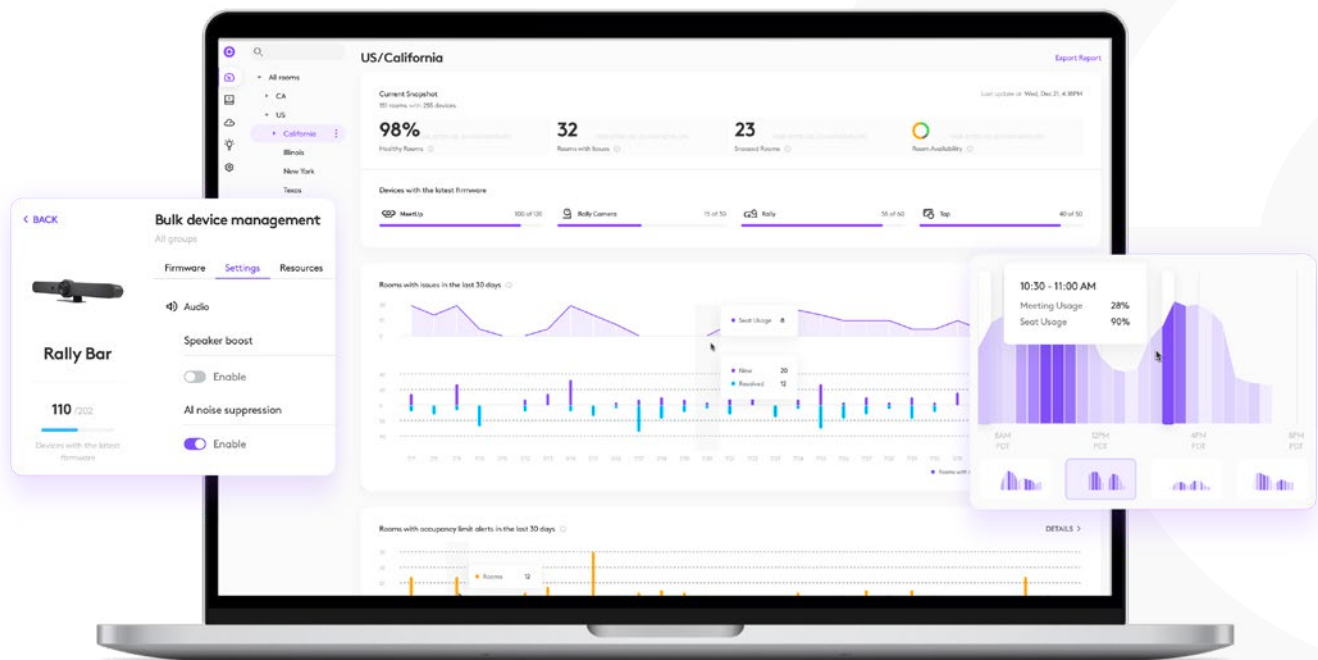
Logi Tuneを使用すれば簡単にウェブカメラ設定を自分の好みに合うように調整できます。

問題をリアルタイムで監視して解決する

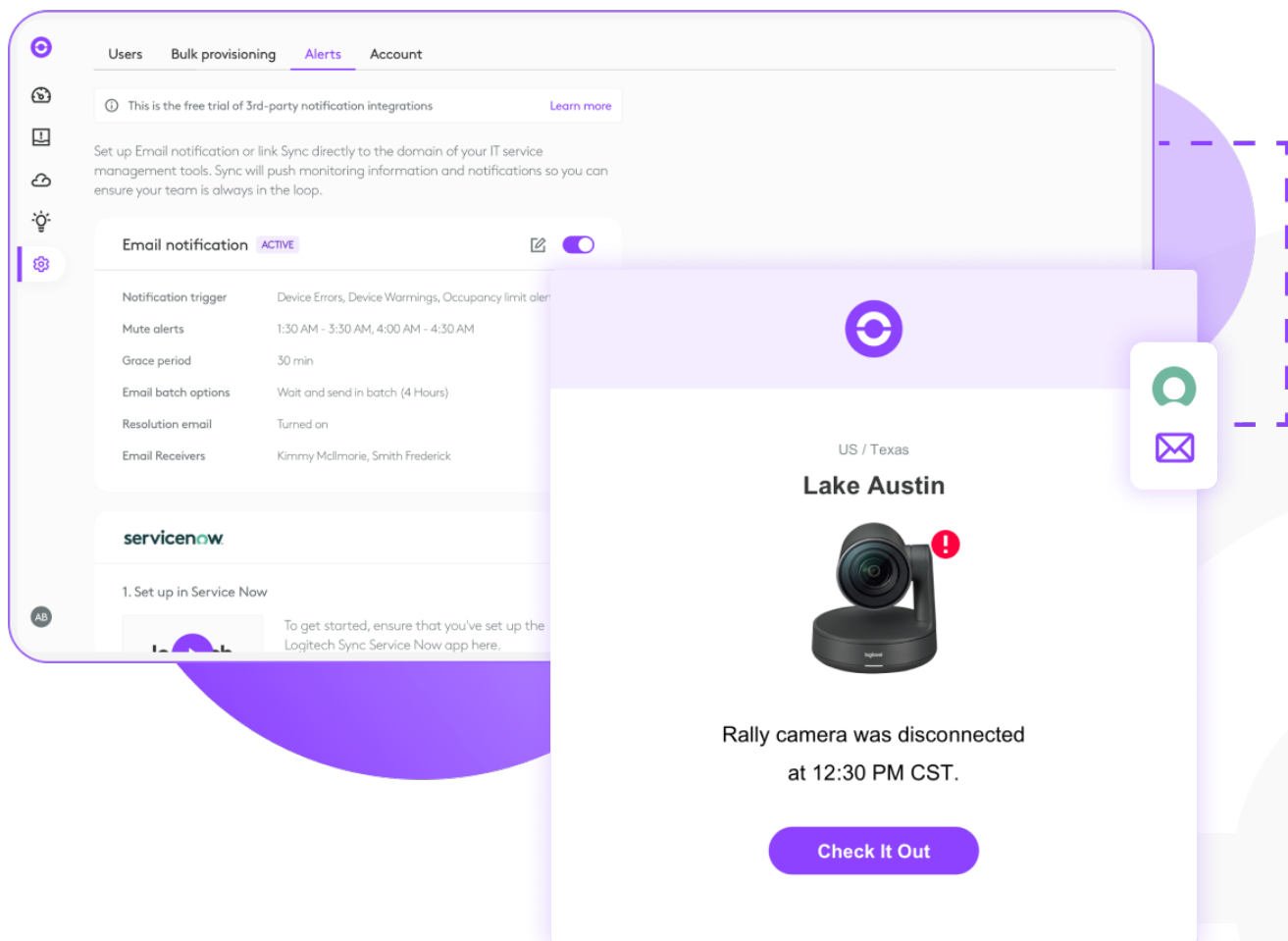
Syncは、デバイスをリアルタイムで自動監視し、問題が発生する前にその発生リスクを警告します。さまざまなロジクールデバイスおよびサードパーティ製デバイス（ウェブカメラ、スピーカー、タッチコントローラなど）との互換性があり、対応デバイスは順次追加されます。

Syncダッシュボードは、USBケーブルが外れている、部品が欠落しているなどの診断結果を正確に表示するため、IT部門が現場訪問に時間を浪費せずに済みます。これらの問題はIT部門スタッフに電子メールアラートとして直接送信されるか、ServiceNowのワークフローの一部として通知されます。

監視機能はIT部門に、すべてのビデオ会議室の貴重なインサイトも提供します。ユーザー側には、いつ会議に訪れても、すべてが想定通りに機能するというメリットがもたらされます。



Syncは、組織内の全接続デバイスおよび会議室の状態や機能の準備状況をリアルタイムに表示する、シンプルなグラフィカル インターフェイスを備えています。

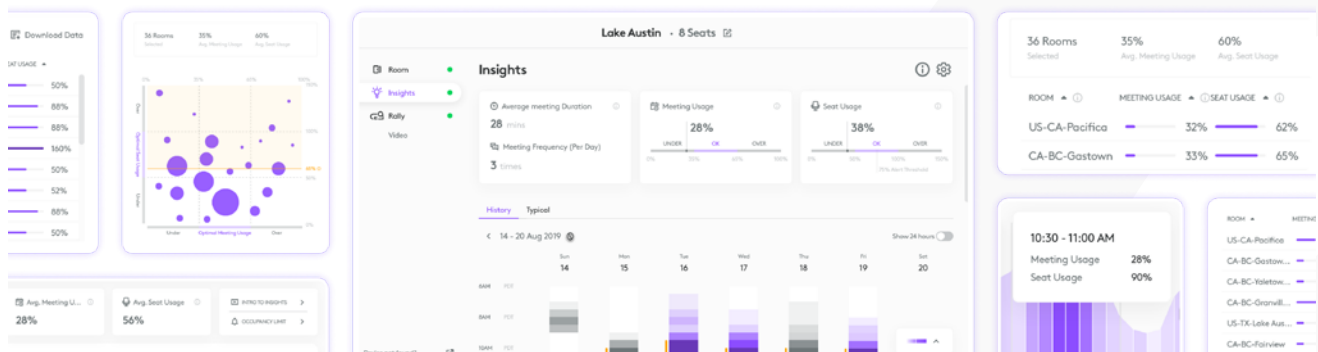


Syncは、さまざまな問題の原因を正確に特定して警告し、対応策を明確化します。

ダッシュボードとインサイトで測定する

Syncは会議室、座席、ビデオコラボレーション機器の使用状況を追跡し、あらゆる場所からこれら3つを最適化するための実用的なインサイトを提供します。こうした測定により、会議室が常に予約で埋まっているか、または空いていることが多いか？席は十分にあるか？など、IT部門は会議室の使用状況をより正確に把握することができます。

IT部門はこれらのデータを使用して、会議室やプロビジョニングの潜在的な問題の発生を抑え、組織内の施設管理部門、安全衛生部門、人事部門内のビジネスパートナーに有益な情報を提供できます。



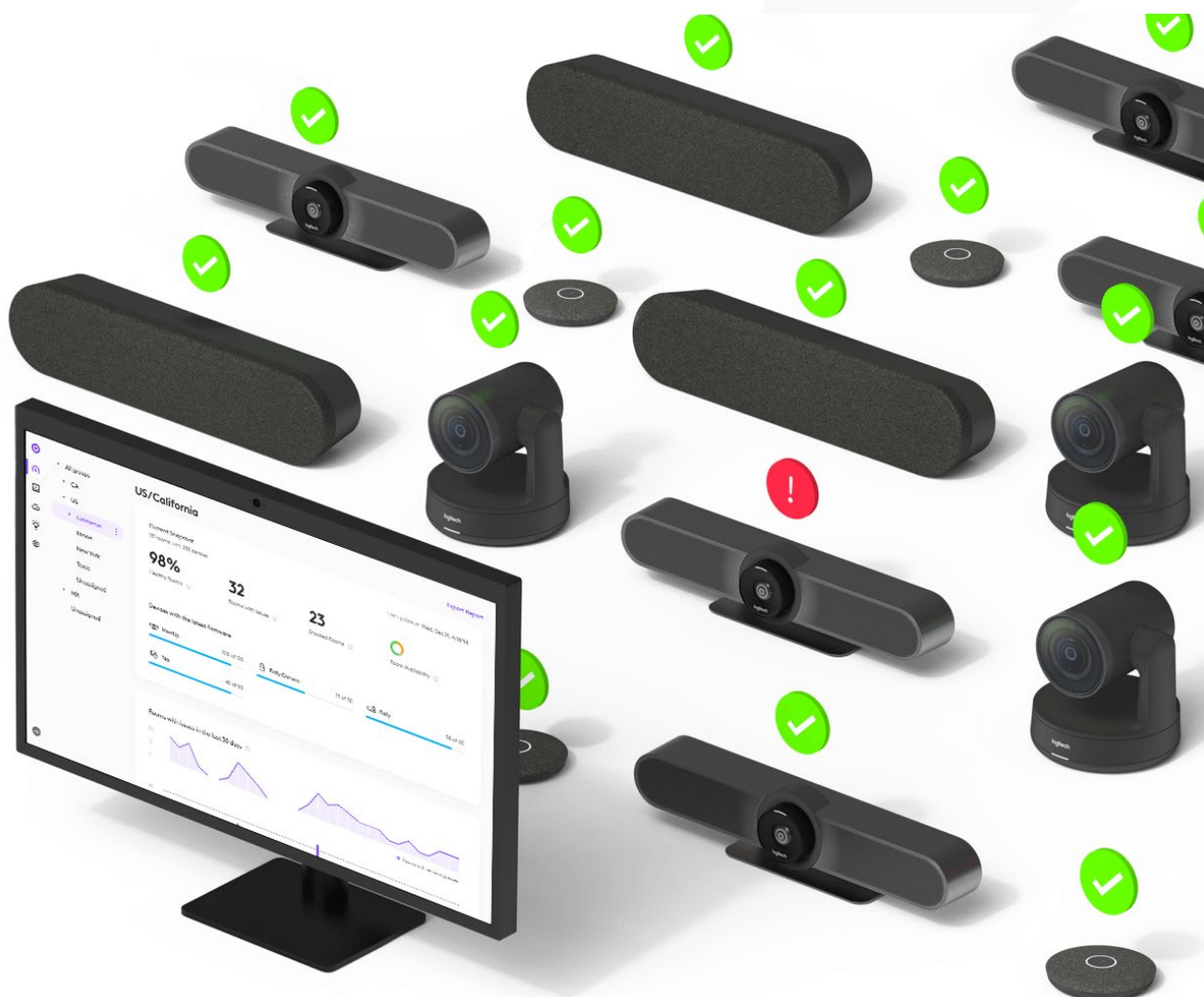
Syncは、会議室の使用頻度、使用日時、使用時間の長さといった情報を集め、スペースおよびリソースの計画の最適化を支援します。

組織の成長に合わせてデバイスを簡単に管理する

Syncは、あらゆる規模の組織に対応します。ビデオ対応会議室を少数のみ保有している組織から、数万台のビデオデバイスを使用している大企業まで、Syncはそのすべてを総合的に管理する単一のクラウドベースのブラウザ インターフェイスを提供します。

Syncは[マルチテナンシー](#)をサポートしているため、マネージドサービスプロバイダー（MSP）のほか、複数の顧客やIT組織の管理を行う企業にとって、最適なソリューションになっています。大企業では、あらゆる地域の子会社ごとに、会議室の管理を簡単に分けることができます。MSPは、環境を混在させることなく、Management-as-a-Service（サービスとしての管理）を顧客に提供できます。

Syncは、エンドツーエンドの暗号化を採用し、オーディオ、ビデオ、共有コンテンツの収集や送信を一切行わないため、会議データのプライバシーと安全性が保証されます。



Syncは、デバイスの物理的な場所に関係なく、組織内のビデオデバイスの数に合わせて簡単に拡張できます。

Syncのシナリオ

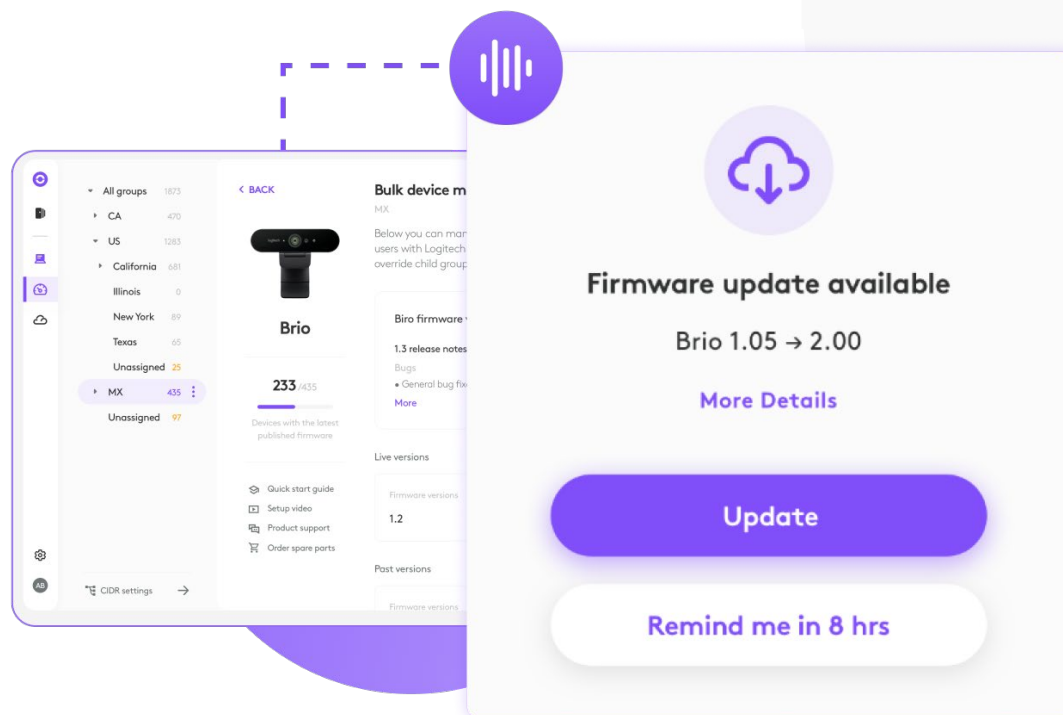
実際のSyncの使用方法について、いくつかの例をご紹介します。



ファームウェア更新

従来はファームウェアを更新する際、ITチームが各会議室を回り、ノートPCを各ウェブカメラ（またはその他の更新可能なデバイス）に接続して、デバイスを一台ずつ最新バージョンに更新していました。この更新モデルは驚くほど非効率的で、自宅などの遠隔地で働く人々の増加に対応できません。

Syncを導入すれば、会議室デバイスの設定調整やファームウェア更新をリモートから行い、デバイスを最高のパフォーマンスで動作させることができます。Logi Tuneとの連携機能により、遠隔地およびオフィスのデスク上のPCに接続されたパーソナルコラボレーションデバイス（ウェブカメラ、ヘッドセット、Logi Dockデバイス）を更新するようユーザーに通知することもできます。



Logi Tuneは利用可能なファームウェアの更新をユーザーに通知できます。



リモート トラブルシューティング

ITチームには、会議室のオーディオが動かなくなったというサポートチケットが離れた場所から届くことがあります。問題の原因は何でしょうか？診断するにはコストのかかる訪問が必要でしょうか？

Syncがあれば、IT管理者はすぐに現状を把握できます。たとえば、ユーザーがUSBケーブルを取り外して自分のノートPCにつなぎ、会議終了後に元のポートに接続するのを忘れた場合、SyncはUSBポートが接続されていないことを通知します。IT部門はSyncによって常に、トラブルシューティングを行うことなく問題の原因を正確に把握することができます。



安全衛生のインサイト

多くの組織が、新たな安全規則を作る中でソーシャルディスタンスを考慮し、屋内の会議スペースに使用率の制限を設けました。Syncは、実際に何人で会議室を使用しているかを追跡することで、コンプライアンスデータをリアルタイムで提供できます。

定員4名の会議室にもかかわらず10名のグループが頻繁に集まっている場合、施設管理部門はそのデータを確認して、密を避けるために椅子を半分に減らすことを検討できます。Syncで生成されたインサイトは、管理を改善し、職場の安全衛生ガイドラインを遵守するのに役立ちます。



信頼できるリソース

会議室は使用されてこそ価値を発揮します。そして使用されるかどうかは信頼性と機能性に依存します。組織が基準に満たないビデオ会議機器を会議室に導入した場合、技術的な問題と遅延を回避するために、従業員が会議室を一切使用しなくなるおそれがあります。

Syncは、会議室と機器の使用状況に関するインサイトを提供し、常に会議室が次の会議に利用できる状態であることを保証します。IT部門はこのデータを使用して従業員との間に信頼関係を築き、会議室とビデオコラボレーションの利用を促進して全体的なROIを高めることができます。



一貫性のある体験

一貫性のあるユーザーエクスペリエンスとは、どこから参加するか（各会議室またはホームオフィス）にかかわらず、誰もが同じように簡単で便利に会議に参加できることです。デバイスと設定に悩まされることなく仕事に集中するために、従業員は一貫性を必要としています。

たとえば、オフィスに2つの会議室があるとします。一方の会議室には旧バージョンのCollabOSで動作するロジクールRally Barが設置されています。もう一方の会議室には最新版のCollabOSで動作するアップデート済みのRally Barが設置されています。アップデート済みのRally BarにはロジクールRightSight 2が搭載されているため、カメラは会議中に話者を自動的にフレーム内に収めます。最新の状態ではないRally Barにはこの機能がないため、こちらの会議室の従業員は故障だと思い、トラブルチケットを作成してしまいます。

Syncを導入していれば、このような状況は発生しません。Syncは、ビデオ会議における技術的な問題とは無縁な一貫性のある体験を実現することで、ユーザーの利用を促進し満足度を高めます。



RightSight 2は会議中に話者を自動的にフレーム内に収めます。



会議室の最適化

設備管理部門は、Syncを使用することで、組織に適切なサイズの会議室を十分に用意し、その使用状況が需要とマッチするように取り計らうことができます。

現在の状況では、10名用の会議室を数名でしか使用しない、という場合があります。また、特定のハドルルームが常に定員オーバーとなっている、もしくは十分なフォーカスルームがなく、個人使用の目的で役員会議室を予約する人がいるかもしれません。

Syncはこれらすべてを監視、測定して、追跡データを提供します。これにより、実際の会議室の使用状況に合わせて会議室の収容能力を調整することができます。

監視下。管理下。

Syncはロジクールビデオ会議ポートフォリオの大部分の製品を監視および管理できます。Syncによる**監視**と**管理**に対応したロジクール デバイスのリスト²を、以下にご紹介します。対応製品は今後さらに増えていく予定です。

会議室用デバイス

MeetUp	Rally	Rally Bar	Rally Bar Mini	Rallyカメラ	Rally Plus
Scribe	Swytch	Tap	Tap IP	Tap Scheduler	

ウェブカメラ

Brio	C920c	C920e	C925e	C930c	C930e
----------------------	-------	-----------------------	-----------------------	-------	-----------------------

ヘッドセット

Zone Wireless	Zone Wireless Plus	Zone Wired	Zone Wired Earbuds	Zone True Wireless	Zone True Wireless Plus
-------------------------------	------------------------------------	----------------------------	------------------------------------	------------------------------------	-------------------------

ドック

[Logi Dock](#)

さらに、会議室に設置された一部のロジクール デバイスおよびサードパーティ製デバイス³を監視できます（Syncによる管理はできません）。

ロジクール デバイス

BCC950e	PTZ Pro 2	ConferenceCam Connect	GROUP
CC3000e	Smartdock	C930e	

サードパーティーデバイス

Poly Studio	AVer CAM540	AVer CAM520 Pro	AVer VC520+	AVer VB342	Yamaha CS-700
Huddly IQ	Crestron-UC-Soundbar	Polycom EagleEye Director II	Polycom EagleEye IV USB	Polycom MSR Dock	Shure P300

結論

あらゆる場所でビデオ会議を利用するということは、デバイスが増えるということです。そして多数の機器を保有すれば、多数の機器を管理する手段も必要になります。Syncは、あらゆる規模のビデオデバイス、ホームオフィス デバイス、会議室を効率的に監視、管理、測定するためのシンプルな手段です。

次のステップ

[Syncポータル](#)にアクセスして利用を開始するか、既存のアカウントにログインして会議室とパーソナルコラボレーション デバイスを追加しましょう。

Syncに関するご質問は、sync@logicool.co.jp（英語のみ対応可）までお問い合わせください。

logicool

販売代理店または当社
(www.logicool.co.jp/vcsales)
までお問い合わせください

購入前のお問い合わせ：
株式会社ロジクール
<https://www.logicool.co.jp/ja-jp/video-collaboration/help/contact-sales.html>

購入後のお問い合わせ：
株式会社ロジクール
カスタマーリレーションセンター
<https://prosupport.logi.com/>

¹ 対応デバイスのリスト：<https://prosupport.logi.com/hc/ja/articles/360062762853>

² 完全対応ロジクール デバイスのリスト：<https://prosupport.logi.com/hc/ja/articles/360040953234>

³ Syncで監視可能なロジクール デバイスおよびサードパーティ製デバイスのリスト：<https://prosupport.logi.com/hc/ja/articles/360044122774>

このホワイトペーパーは、情報提供のみを目的としています。ロジクールでは、このホワイトペーパーに記載された情報に関して、明示的、黙示的、あるいは法定上を問わず、いかなる保証も行いません。このホワイトペーパーは「現状有姿」で提供され、ロジクールによって随時更新される可能性があります。最新版は [ロジクールウェブサイト](#) でご覧ください。

©2022 Logitech, Logicool. All rights reserved.

2022年2月発行